

令和3年度 青少年教育施設を活用した不登校対策事業
サマーキャンプ 事業報告書

担当：沼野

1 事業概要

- (1) 趣 旨 青少年教育施設において、学校生活に悩みをもつ児童生徒を対象に、長期休業中に対応するものとして、児童生徒と相談の上、個別の参加計画を作成し、活動支援を行う。開催期間中は、季節や施設の特徴を生かした体験活動を提供し、参加児童生徒の活動意欲の向上を図る。
- (2) 対 象 不登校の小中高生で、本人の参加意志のある者 20名（保護者等含む）
- (3) 実施期日 令和3年8月2日（月）～6日（金）
- (4) 実施場所 香々地青少年の家
- (5) 参加者数 子ども8名 保護者6名
- (6) プログラム
- ・8月2日～6日まで入所時間退所時間自由
 - ・参加者と連絡を取りながら個別のプログラム作成
 - ・午後よりイベントを開催（2時間程度）
 - ・余裕あるプログラム
 - ・生活リズムの確立（起床・食事・学習・就寝時間）

①

サマーキャンプ参加者日程表

日程	8月2日					8月3日					8月4日					8月5日					8月6日						
	学習 読書	入所式	海水浴 炭作り	夕暮れ サップ		学習 観劇祭		アスレチック 観察会	フラネタ 花火		学習 読書		海水浴 ライダー づくり	おま ハイキング		学習 焼き板		自然観察	夕暮れ サップ		科学実験 アスレチック						
参加者	朝食	午前	昼食	午後	夕食	朝食	午前	昼食	午後	夕食	朝食	午前	昼食	午後	夕食	朝食	午前	昼食	午後	夕食	朝食	午前	昼食	午後			
Aさん（1名）		9:00 入所			宿泊1名					宿泊1名				17:00 退所													
Bさん（2名）				13:00 入所									13:00 入所														
Cさん（2名）				13:00 入所 夕食泊	宿泊2名					宿泊2名				13:00 退所													
Dさん（2名）				13:00 入所	宿泊2名					宿泊1名					宿泊1名						宿泊2名					13:00 退所	
Eさん（2名）													13:00 入所							13:00 退所							
Fさん（4名）																					13:00 入所						13:00 退所

②

活動報告

8月2日（入所 7名）（退所 2名） 参加者7名

学習→海水浴→炭作り→夕暮れサップ

香々地青少年の家1番乗りは午前9時からの入所でした。海に見える図書室で学習し、山羊のライトくんを散歩させました。午後1時に3名の仲間が加わり、一緒に海水浴→炭作り→夕暮れサップと実施した。最初は知らない参加者同士であったが一緒に行う活動を通して4人の子どもたちが自然とつながる事ができた1日でした。



山羊のライトくん散歩



マツボックリ炭作り



夕暮れサップ1日目

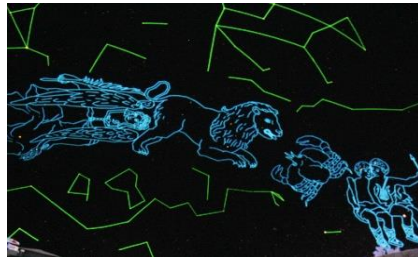
8月3日（入所 2名）（退所 2名） 参加者7名

学習→磯観察→線香花火づくり→プラネタ→花火

昨日日帰りで参加した仲間も朝早くから来所し海の見える図書室で一緒に学習しました。その後、磯観察、午後からは線香花火づくり、プラネタ視聴を行いました。線香花火は、割り箸でもって行いました。2日間参加してくれた1家族がここで別れることになりましたが、同年代の4人の子どもたちは「また会えるといいね。」と話していたのが印象的でした。



線香花火づくり



プラネタリウム



花火に点火

8月4日（入所 2名）（退所 3名） 参加者8名

学習→自由時間→サイダー作り→星空ハイキング

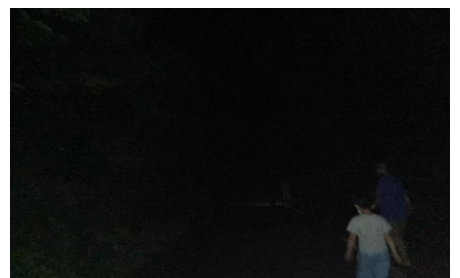
起床→学習後の自由時間は、友だち同士部屋でゲームを楽しみました。午後からは2人の仲間も加わり、7色サイダー作りに挑戦しました。3日間1人で参加してくれた友だちは、夕方保護者が迎えに来て、ここで別れることになりました。最後まで保護者に「まだ、居たい」と言っていたが、叶いませんでした。夕方は、食堂が休館のため星空観察をしながら近くの食事処までハイキングしました。さそり座のきれいな夜でした。往復30分以上の道のり頑張りました。



朝の学習（海の見える図書室）



サイダーづくりに挑戦



星空ナイトハイキング

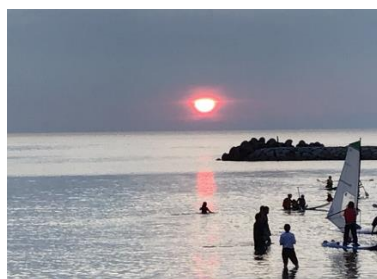
8月5日（入所 4名）（退所 2名） 参加者8名

学習→焼き板→所内オリエンテーリング→夕暮れサップ→プラネタ

学習の後、参加者の要望で焼き板の体験を行いました。たき火を使って、板を焼き素敵なプレゼントの壁掛けができました。午後は4人の新しい仲間を迎え線香花火づくりを行いました。夕暮れサップ、プラネタを見た後は、本物の星空を観察し、作成した線香花火と市販の花火を楽しみました。



焼き板づくり



夕暮れサップ4日目



所長からいただいた花火

8月5日（入所 0名）（退所 6名） 参加者6名

学習→おもしろ科学実験→退所

ふれあいキャンプ最終日、朝起きて、全員が退所の部屋点検を行いました。二度寝をし、起きれない友だちもいました。最終日は、おもしろ科学実験です。爆発実験が怖い言っていた友だちも最後まで参加できました。みんなで昼食をとってまたの再会を約束しました。

（7）成果と課題

① 成果

- 入所・退所時間を自由にした。保護者の都合に合わせて来所・退所が可能であり、いろいろな利用方法で子どもたちが参加することができた。
- ホームページにサマーキャンプ申込みフォームを掲載する事によって新たなふれあい広場登録者の増につながった。
- ふれあい広場登録者全員に参加案内をメールで配信→申し込み→やりたいプログラム確認→個別プログラム作成→参加により、一人ひとりの意欲の向上につながった。
- 同じ悩みを持つ参加者同士のつながりをつくることができた。
- 子どもの自立に利用する保護者もいた。（一人宿泊 一人サップ 親離れの場）
- いろいろな参加内容の子どもに対応できた。
（4泊5日、日帰り、家族宿泊、一人宿泊・家族宿泊の併用等）
- 青少年の家職員とのつながりができた。
（その後の活動として マリンスクール参加 ふれあい活動参加 悩み相談）
- 香々地青少年の家の海のプログラム（Sup、磯観察、海水浴）星のプログラム（プラネタリウム・実天観察）をすべての参加者が体験できた。
- 起床・食事・学習・イベント・入浴・起床時間の設定により不登校の子どもたちの生活リズムをつくる事ができた。
- 同じプログラムでも内容を変えて実施することができた。（同じプログラム参加者あり）
（プラネタ→解説者変更 線香花火づくり→紙・火薬・実験内容変更 サップ技術の向上）

② 課題

- やりたいプログラムとできるプログラムの兼ね合い、同じプログラムを共有する参加者との打ち合わせが煩雑である。（動ける職員の数によりできるプログラムに制限がある人員不足）
- コロナ禍の中、準備や感染リスクを考えて実施できないプログラムあった。
- 保護者不在の中での支援の必要な子どもへの対応
- オリエンテーションの時間確保（注意事項 別途メイキング 日程）